

先日、第2回『まち』とともにあゆむ学校づくり懇話会（学校関係者評価委員会）を開催いたしました。ご報告いたします。

平成29年度 第2回『まち』とともにあゆむ学校づくり懇話会（学校関係者評価委員会）記録

○ 日 時 平成30年2月17日(土) 15時00分～16時10分

○ 会 場 横浜市立丸山台小学校 校長室

○ 参加者 系氏 晃子（丸山台小学校 PTA 会長） 荒木 宏子（丸山台中学校 PTA 代表）
榎田 卓央（丸山台中学校 校長） 阿曾 弘美（丸山台自治会長）
坂本 善彦（いずみプラザ上永谷自治会長） 鶴田 櫻（放課後キッズクラブ主任指導員）
伊藤 弘子（丸山台保育園園長）
新井 篤志（丸山台小学校 校長） 富岡 直子（丸山台小学校 副校長）
関 淑子（丸山台小学校 教務主任） 神野 崇（丸山台小学校 児童支援専任）
藤田健太郎（丸山台小学校 研究部長）

○ 内容

司会 副校長 記録 神野

1 学校長挨拶

- 本日の会は、学校関係者評価が中心になる。子ども・保護者・教職員のアンケートも入れさせていただいた。今回の会から就学前の保育園の方に入っただき、保育園、小学校、中学校、地域の方と幅広いメンバーとなっている。忌憚のないご意見をいただきたい。
- 参加者自己紹介

2 学校から 説明

- 学校評価アンケートについて（関）
教職員と保護者のアンケート項目を一緒にした。児童指導・地域連携について結果の分析。
- 学校いじめ防止基本方針について（神野）

3 意見交換

- 学校評価の結果は、昨年同様おおむね8割をこえる高評価ではある。今年度から職員と保護者のアンケートを同じ設問にした。すると、ギャップがあることが分かった。例えば、児童指導と地域連携。教職員の評価と保護者の評価に違いがある。また、地域連携については、子どもの評価と保護者の評価が違う。内部評価と外部評価の見え方の差を真摯に受けとめると共に、今後助言を頂きたい。キャリア教育や健やかな体の項目は、以前から継続してきた「『食』の学び」を中心に取り組んできた。新しい教育課程に向けて、今後の丸小の方向性を考えていく時期に来ている。
- 学校関係者評価に今回の内容を入れていく。
- 現在のいじめの定義からすると、いじめのない学校はあり得ない。いじめを取り除くという考えだけではなく、集団の軋轢の中で、課題を乗り越える力もつけていきたい。
- 中学校でも、SNSを通じたトラブルがある。コミュニケーション能力の育成が大切である。
- 親子の会話の時間をしっかりと確保していきたい。
- リタイア世代と子どもたちとのつながりは希薄である。
- 地域について、公園の清掃などへの参加を学校でも呼びかけてもらえるとありがたい。
- 地域の行事は、楽しいことだけに目がいきがちである。
- 籠森公園に防犯カメラが設置される予定である。
- 学校・家庭・地域で子どもが減ってきている。保護者も昔と比べると数が減っているので、今までできていたことも、当たり前のようにできるとは限らない。